

## 令和7年度 事業の重点及び具体的施策

### 1 とちぎ未来アシストネット事業の一層の周知に努め、保護者ボランティアの参加を促進し、幅広い世代でのボランティア活動を充実させる。

- (1) P T A総会や役員会等でアシストネット事業について説明する機会を設け、学校支援ボランティアの意義や効果への理解を深める。
- (2) 各学校やP T Aの要望に応じて、担当者が研修会の講師として、ボランティアとの円滑な連携方法を学ぶワークショップ等を実施する。
- (3) 保護者用、地域住民用の学校支援ボランティア募集のチラシやリーフレットを配布し、本事業の一層の周知に努める。
- (4) 学校支援ボランティア活動に、多世代で取り組むことにより、保護者とシニア世代がつながり、互いに励まし支え合う関係を築けるようにする。
- (5) 「とちぎ未来アシストネットボランティア交流会」を実施し、学校関係者、地域住民、保護者の交流や、アシストネット事業についての理解深め、幅広い世代でのボランティア活動を促進させる。

### 2 児童・生徒の地域活動や地域貢献活動への参加を促進する。

- (1) 子どもたちが地域活動に参加する機会を増やすため、地域の行事やイベント等と連携し、学校と地域が協働で取り組む活動の促進を図る。
- (2) 児童・生徒の主体性や社会性、郷土愛、ボランティア精神を育むため、地域の特性を活かした学習活動を取り入れ、子どもたちが地域の一員としての自覚を持てるようにする。
- (3) アシストネットだよりや市のホームページを活用し、参加した児童・生徒の声や活動の様子の写真を掲載し、各学校や児童・生徒の参加への意欲を高める。

### 3 地域アシストネット運営本部（公民館）が中心となり、地域の特性を生かした教育活動の充実を図る。

- (1) 地域アシストネット運営本部が「地域コーディネーター連絡会議」を開催し、地域コーディネーター同士の連携を深められるようにする。
- (2) 地域資源（「ひと・もの・こと」）をより活用できるように、地域コーディネーターは、地域の団体や人材とのネットワークの構築に努める。

#### ☆目標達成を図る指標

学校支援ボランティア参加者のうち保護者の人数が7,000人以上。